

決算状況

八女市では条例に基づき、毎年5月と11月に市の財政状況を公表しています。今回は、令和元年度の決算の内容をお知らせします。広報紙では、それぞれの項目について簡素化して掲載していますが、詳しい決算の内容については市のホームページの「財政状況」および財政課内で閲覧することができます。

八女市は合併して10年を迎え、この間、国・県補助金や市債等の財源を有効に活用しながらさまざまな事業を行ってきました。特に市債については、市の財政負担の軽減のため、地方交付税措置があるものを中心に借入れを行っています。今後も、将来世代への過度の負担を残さないよう安定した健全な財政運営に努めていきます。

●問い合わせ先 財政課 財政係 (☎23・1346)

財政用語の解説

【地方交付税】 所得税など国が徴収した税金の中から、市の財政状況に応じて交付されるお金。

【国県支出金】 事業など特定の目的の費用として、国・県から交付されるお金。

【市債】 大きな事業を行うために、国や金融機関から借入れるお金。*借入金に対しては、内容に応じてその元利償還金の財源として国から交付税が充てられます。(例：過疎対策事業債は借入金の70%算入など)

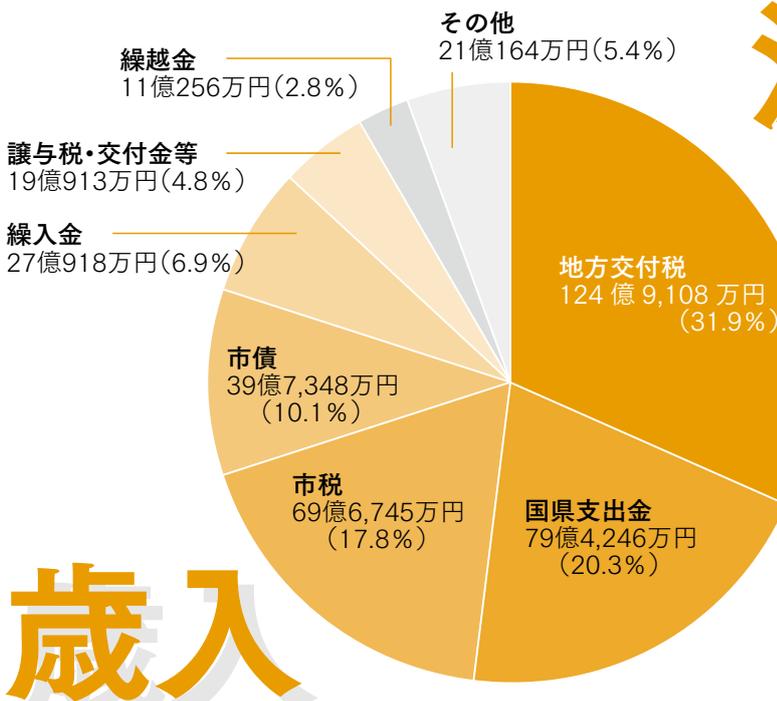
【自主財源】 市町村税など自主的に収入する財源。

【依存財源】 他に依存する形で調達する財源。(地方交付税など)

【義務的経費】 支出することが制度的に義務づけられている経費のこと。人件費、扶助費、公債費の3つからなる。

【投資的経費】 道路、橋りょう、公園、学校、公営住宅の建設等社会資本の整備等に要する経費。

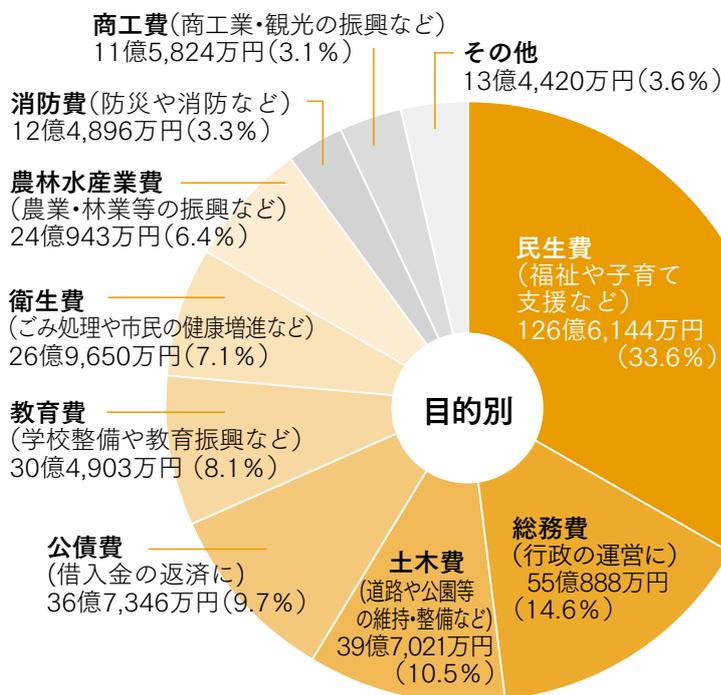
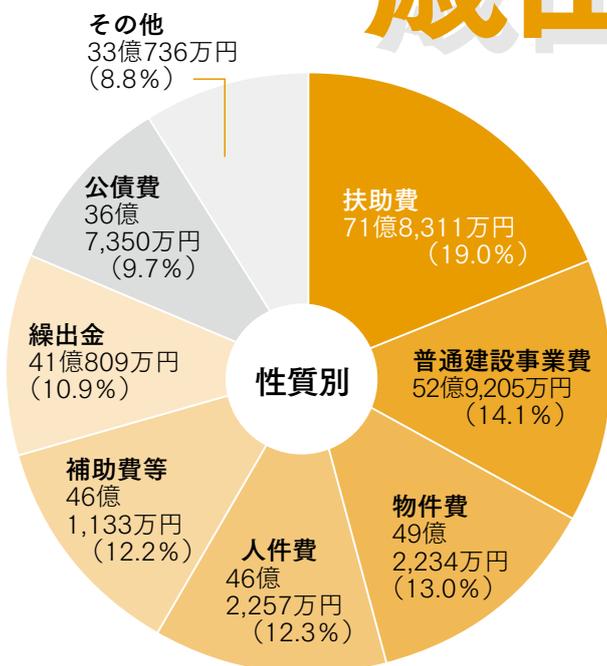
▼令和元年度歳入 391億9,698万円



歳入

歳出

▼令和元年度歳出 377億2,035万円



▼八女市の財政を家計に例えたら（令和元年度決算）

令和元年度の一般会計決算額を1月当たりの収入30万円の家計に置き換えてみました。

財源	家庭の収入		市の収入		割合
自主	給料（基本給）	6万3千円	市税	69億7千万円	20.8%
			使用料・手数料・分担金・負担金・諸収入	11億9千万円	
依存	給料（諸手当）	11万円	地方交付税	124億9千万円	36.7%
			地方譲与税・各種交付金	19億1千万円	
依存	親からの援助	6万1千円	国県補助金	79億4千万円	20.3%
自主	その他の臨時収入	7千円	寄付金・財産収入	9億2千万円	2.4%
依存	ローン（借入金）	3万円	市債	39億7千万円	10.1%
自主	貯金の取り崩し	2万1千円	繰入金	27億1千万円	6.9%
自主	前月の残金	8千円	繰越金	11億円	2.8%
	収入計	30万円	歳入計	392億円	100.0%

●自主財源（32.9%）（自主）
家庭＝9万9千円
市＝128億9千万円

●依存財源（67.1%）（依存）
家庭＝20万1千円
市＝263億1千万円

依存財源の内、国・県の補助金等を活用した財源（57.0%）
家庭＝17万1千円
市＝223億4千万円

経費	家庭の支出		市の支出		割合
義務的経費	食費	3万6千円	人件費	46億2千万円	12.3%
	医療費や子どもの学費	5万5千円	扶助費	71億8千万円	19.0%
	ローンの返済	2万8千円	公債費（※1）	36億8千万円	9.7%
その他の経費	光熱水費などの雑費	3万8千円	物件費	49億2千万円	13.0%
	車などの修理代	2千円	維持補修費	2億3千万円	0.6%
	親戚への援助など	3万5千円	補助費等	46億1千万円	12.2%
	貯金	1万円	積立金	13億2千万円	3.5%
	生命保険など	5千円	投資・出資・貸付金	7億1千万円	1.9%
	子どもへの仕送り	3万1千円	繰出金	41億1千万円	10.9%
投資的経費	自宅の増改築や家財道具の購入	4万1千円	普通建設事業費	52億9千万円	14.1%
	壊れた持ち物の再購入	8千円	災害復旧事業費	10億5千万円	2.8%
	支出計	28万9千円	歳出計	377億2千万円	100.0%
	翌月に使えるお金	1万1千円	余剰金	14億8千万円	

●義務的経費（41.0%）
家庭＝11万9千円
市＝154億8千万円

●その他の経費（42.1%）
家庭＝12万1千円
市＝159億円

●投資的経費（16.9%）
家庭＝4万9千円
市＝63億4千万円

※1市の場合、借入金の元利償還金の返済（公債費）にあたっては、その一部が国から地方交付税として交付されます。
よって、市の実質負担は小さくなります。

●決算の状況

令和元年度は、国県の補助事業等の財源を効果的に活用しながら自主財源を有効に使い、財政の安定運営を進め、財源の重点的な配分を行いました。少子高齢化対策、安心安全なまちづくりの推進、子育て相談支援事業、観光の振興、過疎対策や定住促進などの事業を推進してきました。

一般会計決算額は、歳入で39億9698万円、歳出で377億2035万円、差し引き14億7663万円となります。これから翌年度へ繰り越した事業にあてる財源9億3117万円を差し引き、実質収支で5億4546万円黒字決算となりました。この内から3億円を財政調整基金に積み立て、残りの黒字額2億4546万円を令和2年度の財源に充当しました。

●健全化判断比率（表1）

健全化判断比率および資金不足比率は、令和元年度の決算状況を法律に基づき全国統一の指標として計算したもので、基準を超えた場合は、財政健全化計画を策定し、計画的に健全化に向けて取り組まなければなりません。八女市は、国が示している基準を下回っており、地方公営企業の資

（単位：%）

▼健全化判断比率（表1）

	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
八女市	－	－	9.0	－
早期健全化基準	12.52	17.52	25.0	350.0
国の財政再生基準	20.00	30.00	35.0	

※実質赤字額および連結実質赤字額がなく、将来負担比率は算定されないため、数値は「－」と表示しています。

金不足も生じていません。
▽実質赤字比率「二」については、普通会計（一般会計・住宅新築資金等貸付事業費特別会計・矢部診療所特別会計）において黒字であることを意味しています。▽連結実質赤字比率「二」については、普通会計にその他の特別会計を含めた数値が黒字であることの意味しています。▽実質公債費比率は、その年度の標準財政規模に対して起債（借金）の返済額（公営企業分や一部事務組合の起債を含む）の割合を出したものです。▽将来負担比率「二」については、負債に充てるための財源が負債額を上回っていることを示しています。

快 適で安全・安心な暮らしを支える
都市基盤づくりと都市機能

- 乗合タクシー運行事業…7,662 万円
- 道路・河川改良事業…14 億 1,173 万円
- 防災対策事業…2,785 万円
- 老朽危険家屋等除却推進事業補助金…447 万円
- 危険ブロック塀等対策事業費補助金…81 万円
- 消防関係施設設備等整備事業…7,072 万円

PickUp!

老朽危険家屋等
除却推進事業補助金

老朽危険家屋等の除却に対して補助金を交付し、空き家問題の解消に繋げ、生活環境の保全や安心なまちづくりを推進することが出来ました。

PickUp!

危険ブロック塀等
対策事業費補助金

道路に面するブロック塀を診断し危険性が高いものの撤去工事費の助成を行い、歩行者等の安全な通行を確保しました。

人 と自然にやさしく、暮らしやすい
生活空間づくり

- 空き家バンク事業 …375万円
- 若年世帯家賃等支援補助事業…6,962万円
- マイホーム取得支援事業…5,781万円
- 浄化槽設置整備事業…1 億 51 万円

地 場産業・観光の振興と地域資源を
活かした新産業創出、雇用の確保

- 新規就農促進支援事業…9,216 万円
- 八女材普及促進住宅資材助成事業…2,975 万円
- 新規創業者および新事業展開補助事業…499 万円
- 立花農産物等直売所食のスペース等新築事業…
2 億 3,353 万円 (内 R 元年度分 8,930 万円、R2 年度
繰越分 1 億 4,423 万円)

PickUp!

立花農産物等直売所食のスペース等新築事業

道の駅たちばな敷地内に、農産加工、研修、食事・休憩ができる食のスペース『お食事処 招竹梅』を新設し、地域経済の活性化と雇用機会の創出のために施設全体の生産力向上を図りました。
(令和2年8月8日オープン)



少 子・高齢社会に対応し、自分らしく、
安心して暮らせるまちづくり

- ひきこもり対策推進事業…536 万円
- 農福連携推進事業…13 万円
- 利用者支援事業 (母子保健型) 等…727 万円
- 北山保育所建築事業…4 億 2,452 万円
(内 R 元年度分 1 億 5,692 万円、R2 年度繰越分
2 億 6,760 万円)
- 各種がん検診委託事業…7,473 万円
- やめっこ夢祝金支給事業…2,878 万円
- やめUIターン子ども応援手当支給事業…606 万円
- 路線バス通学定期補助事業 …932 万円

PickUp! ひきこもり対策推進事業

福祉生活支援室「ほっと館やめ」でひきこもり状態にある人やその家族に対して支援を行いました。また、制度を超え複雑化する相談に対応するため、さまざまな相談支援機関のネットワークの構築を行いました。



支援の様子

相談者が抱える複雑化した課題に対し、支援者であるサポーターが課題を整理し、制度を超えた支援を行うことができました。

PickUp! 農福連携推進事業

平成 30 年度試験的に 2 事業所が JA なす選果場で従事した際の問題点、課題を洗い出し、関係機関と協議を進め、令和元年度に 6 事業所が就業を開始しました。またコーディネーターを社会福祉協議会へ委託し、福祉事業所と働く場の派遣システムの構築を図りました。

PickUp! 利用者支援事業 (母子保健型) 等

「子育て世代包括支援センター」をやめっこ未来館内に新設し、母子健康手帳の交付時より妊産婦への相談・支援や、出産後の新生児の相談や訪問など、保健師、助産師、社会福祉士などの専門職による切れ目のない支援を行うことができました。また、福岡県助産師会に委託し、産後ケアの必要な産婦、乳児に対し、支援センターと連携を図りながら支援を行いました。

PickUp! 北山保育所建築事業

老朽化していた北山保育所の園舎の建て替えを行い、保育をさらに充実させるための機能と安心・安全な環境を備え、今後も八女市の未来を担う子どもたちの健やかな育成に貢献できるようになりました。

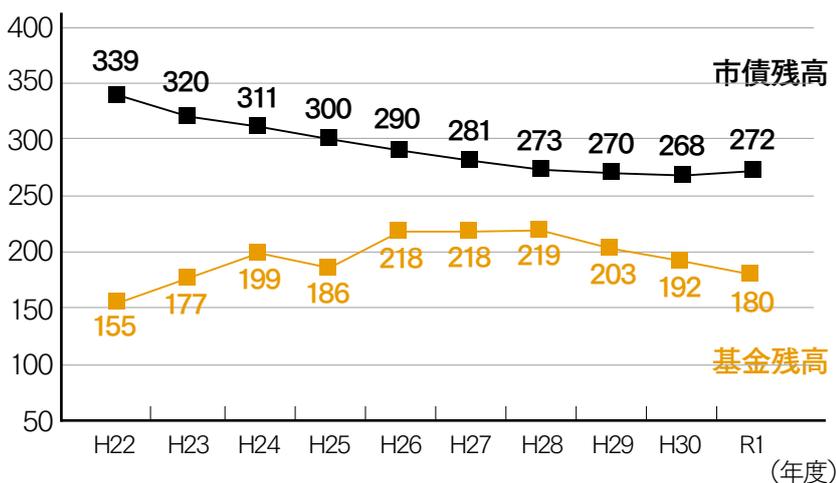


■令和元年度特別会計決算状況

会計名	歳入	歳出	差引
国民健康保険事業費	90億2,239万円	89億316万円	1億1,923万円
簡易水道事業費	2億3,337万円	2億1,156万円	2,181万円
住宅新築資金等貸付事業費	8,673万円	8,673万円	0円
下水道事業	12億881万円	11億4,359万円	6,522万円
介護保険事業費	80億6,353万円	76億4,898万円	4億1,455万円
後期高齢者医療	10億4,132万円	10億4,018万円	114万円
農業集落排水事業	8,430万円	7,074万円	1,356万円
矢部診療所	8,172万円	7,489万円	683万円
黒木町串毛財産区	122万円	10万円	112万円
黒木町木屋財産区	875万円	123万円	752万円

■一般会計市債・基金残高の推移

(単位:億円)



※平成22年度から令和元年度までの一般会計市債・基金残高の推移です。

森林環境譲与税を活用した事業について(令和元年度実績)

令和元年度森林環境譲与税譲与額 3,934万4千円

- 森林経営管理事業(業務委託)…484万円(うち譲与税484万円)

森林経営管理法に基づく意向調査に取りかかる為の優先順位等の検討を行うため、モデル的に約600haの山林で森林資源情報の解析調査業務を実施。

- 木材生産促進事業…372万9千円(うち譲与税372万9千円)

市内に所在する森林から市内市場等へ搬出される間伐材の運搬経費に対し1㎡あたり1,000円以内の補助を行い搬出間伐の促進と木材の生産活動を推進。

- 森林保全整備促進事業…3,084万7千円(うち譲与税3,077万5千円)

市内に所在する森林において実施される植栽・下刈・間伐・除伐・作業道整備等の森林保全整備に対し事業経費の20%以内の補助により森林保全整備を促進。

※詳細は八女市公式ホームページに掲載しています。

生 生きる力の育成と豊かな心を育てるまちづくり

- 学力向上推進事業…8,611万円
- 入学祝金事業…3,971万円
- 八女市奨学金…1,395万円
- 矢部地区小中学校校舎等整備事業…2億7,797万円
- 中学校空調設置事業…1億3,932万円

PickUp!

矢部地区小中学校校舎等整備事業

矢部地区小中学校(矢部清流学園)の増築等工事を行い、義務教育学校として施設の整備を図ることが出来ました。



市 民とともに歩み、市民とともに進めるまちづくり

- 地域活性化推進プラットフォーム事業…356万円
- 都市交流事業…310万円

PickUp!

地域活性化推進プラットフォーム事業

地域事業者、コミュニティ団体等へのヒアリングやワークショップを行い、システムの仕様および運営体制を決定しました。また、金融機関や学術機関との連携に向けて協議

を行い、地域通貨の基盤整備を図りました。

